

Application Discovery and Delivery Intelligence:

エンタープライズアプリケーションの相互依存性と潜在的な変更の影響を理解



主要メリット

- 重要な経営の意思決定
 - 技術デリバリーチームのパフォーマンスの向上
 - アプリケーションの品質とコンプライアンスを改善
-

商品概要

主導で複雑なアプリケーションランドスケープを理解することの主な課題の1つは、「何が分からないかが分からない」ということです。そして、アーキテクチャーや設計に戻り、現在のバージョンのソースコードがそれらと一貫しているだろうと希望することは、時間がかかり、エラーが発生しやすいと言えます。

Application Discovery and Delivery Intelligence は、初期の発見から、詳細な理解まで、アプリケーションポートフォリオを最大限に活用するためのアプリケーション検出および分析ツールキットを提供します。異なるアプリケーションのコンポーネント間を分析し、関連させ、そして視覚化し、アプローチのライフサイクルにわたってのアプリケーションへの理解を容易にします。また複数の言語ならびに環境にわたって動作し、一貫性のある理解と測定を行います。内部アプリケーション構造、相互依存性、そして関係を視覚化すること、そして文書の生成を自動化することで、ADDI はサポート活動のために不可欠なツールであり、そしてアプリケーションの改善と修正を行うための前準備ともなります。これはすべての技術スタッフが使用できるように設計されています。また、ソフトウェアの品質ならびにポートフォリオ管理について、アプリケーションの複雑さならびに保全性の指標も提供してくれます。

ADDI は、異なるアプリケーションのコンポーネント、それらのITインフラ、そしてそれらが消費するリソース間の関係を関連させ、アプリケーションと操作のギャップを埋め、そして本番のサポートと根本原因解析を改善します。複数の言語および環境にわたって動作し、一貫した理解と測定を可能にします。異なるアプリケーションのコンポーネントを解析する機能(例えば、ソースコード、オープンソース(OS) スクリプト、インクルードファイル、画面マップ、トランザクション、メッセージングシステムデータ、アプリケーションサーバーデータなど)、そしてアプリケーションにわたるおよび内部のアプリケーション構造と相互依存性を視覚化することにより、ユーザーは正確に分析の範囲とレベルを決定するためその開始地点を選択し、必要に応じてナビゲートまたはドリルダウンすることが可能です。



この機能性は、多様な視覚化とレポートオプションによって補完されるため、ユーザーは分析の範囲とどれくらい掘り下げるかを正確に定義することができます。

ADDI 階層マッピング

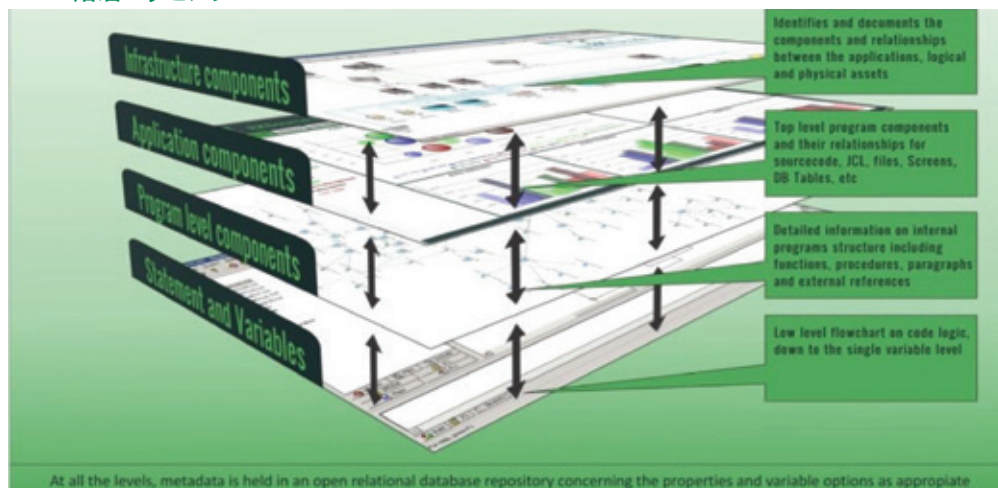


図 1: ADDI 階層は、オープンで連合されたアーキテクチャを基にマッピングされているため、情報は単一のリポジトリに保管され、すべての ADDI ツールは、他の関連情報と統合された顧客指向のレポートのために外部からもアクセスできるようになります。

ADDI 要素

要件や結果に応じて、分析の表示法には様々多くのオプションがあります。例えば、ある分析が異なる種類のコンポーネントの複雑な相互依存性を示した場合、ADDI にはユーザー定義の依存性レベル、フィルター、そして多種の視覚化レイアウトがあり、ユーザーの最適な理解を助けます。分析のすべての段階で、ADDI はソース構成管理システムと操作データを同期させるので、本番をサポートするエンジニアと開発者は、機能がどのように実行されるのかを厳密に理解することができます。

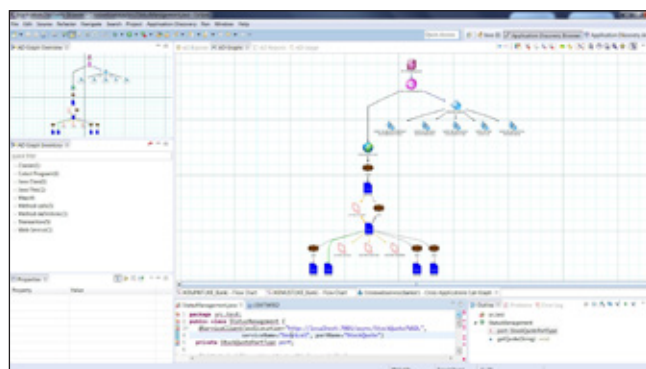


図 2: コンポーネントとバンキングアプリケーションの関係を示す、クロスアプリケーション呼び出しグラフ

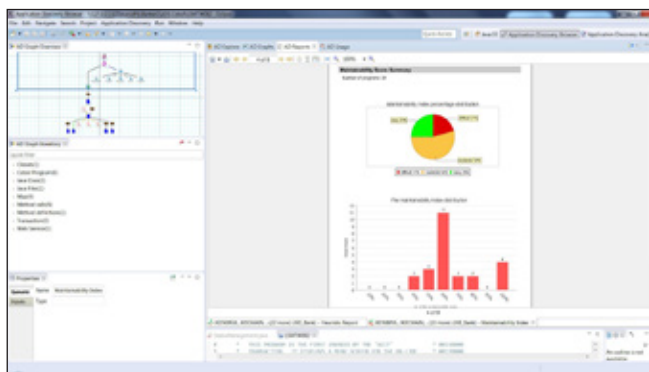


図3: 変更の努力を推定する際に支援となる保守性評価

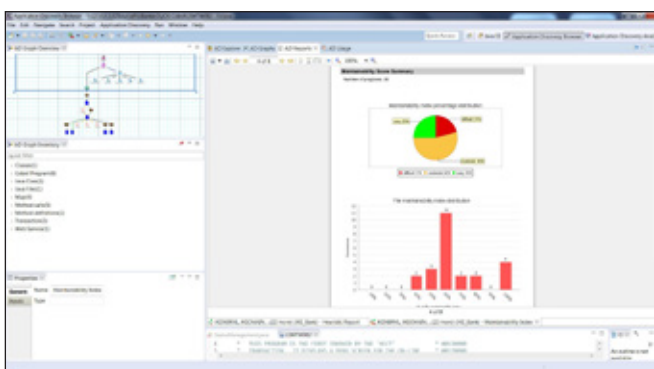


図4: 変更を行う前にその論理を理解するための、アプリケーションのフローチャートレベルレビュー

この内部分析に加え、ADDI はデータベースならびにインターフェースコンポーネントも含まれているため、それらの観点から開始するだけでなく、それらの重要な側面も理解に含めることができます。手動で実施した場合、「このデータベーステーブルはどこで使われているか?」、または「このアプリケーションにはどこでMQが統合されているのか?」などの簡単な質問を識別することは困難ですが、ADDI ならこれらの完全な結果が即座にわかります。

例えば、「変更がなされる前に、どこでリソースが使用されているかを特定する「Where Used (使用場所)」レポートなどがあります (図5参照)。

潜在的なメリット

ADDIは、アプリケーション資産を理解し、次についての正しい情報を得るための鍵です:

- ・ 重要な経営意思決定
- ・ 技術デリバリー・チームのパフォーマンスの向上
- ・ アプリケーションの品質とコンプライアンスの改善

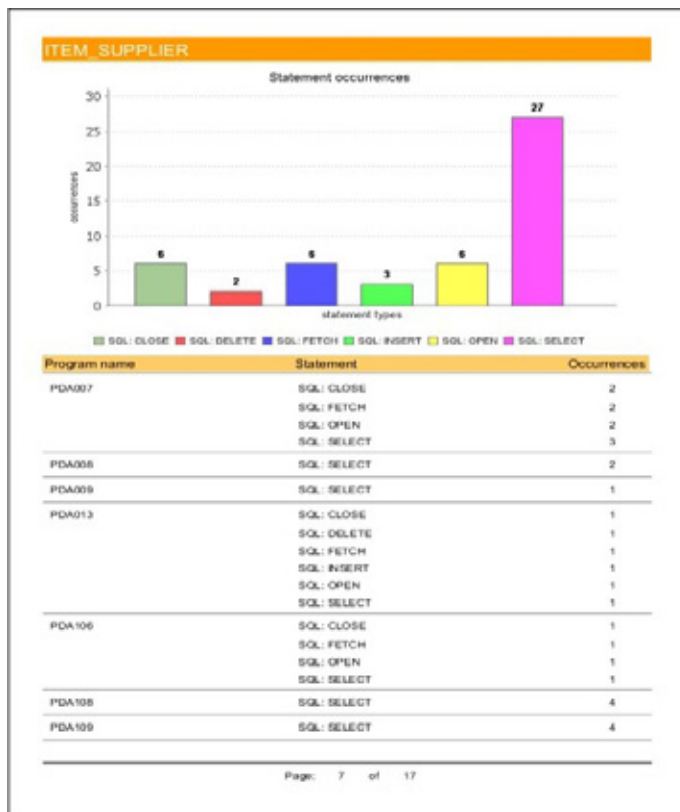


図5: 変更がなされる前に、どこでリソースが使用されているかを特定する「Where Used (使用場所)」レポート

「グリーンフィールド」環境でアプリケーションを開発もしくは実装する組織はほとんどないことから、既存のランドスケープ、複雑な相互依存性、そして変更与える影響のスケールと範囲を理解することは、ITアプリケーション変更プロジェクトの計画、設計、実行、そして文書化において非常に重要です。これらの主要な活動が基礎とする正確な情報を得ることで明白なメリットを実現します:

ALMフェーズ	典型的な節減	基礎
評価	70 - 85%	精度向上、変更影響分析の強化、そして現在のシステムに基づいたフットプリントの理解の改善
要件	20 - 35%	自動文書化
計画	30 - 50%	詳細な実行計画およびタスクベースのリソース/コスト見積もり
開発	30 - 50%	再作業の減少、高いリソースの生産性
文書化	60 - 90%	オンデマンドと自動化
テスト	30 - 50%	エラー削減の改善
サポートおよびメンテナンス	30 - 40%	改善された資産効率、より高いリソースの生産性
全体	30 - 50%	ビジネスケースに保守的

注意: この表に示すパーセンテージは、2013-2015年に実施した顧客アンケート、業界分析および業界基準の枠組みのガイダンスに基づいています。



z Systems について

IBM z13 (z13) の詳細については、日本 IBM 営業担当員または IBM ビジネス・パートナーにお問い合わせいただくか、次の Web サイトをご覧ください。 ibm.com/systems/z13

さらに、IBM グローバル・ファイナンスは、最も費用効果の高い、戦略的な方法で、あなたのビジネスに必要な IT ソリューションの獲得を支援いたします。信用審査で承認されたお客様には、ビジネスの要件に合う IT 融資ソリューションをカスタマイズ、効率的な資金管理を可能にし、お客様のオーナーシップの総コストの改善をいたします。IBM グローバルファイナンスは、重要な IT 投資への資金調達に最もスマートな方法であり、あなたのビジネスを推進します。詳細はこちらをご覧ください: ibm.com/financing

© Copyright IBM Corporation 2017

IBM Corporation
Software Group
Route 100
Somers, NY 10589

Produced in the United States of America
November 2016

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、および EZsource は、世界の多く国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、IBM または他社の商標である可能性があります。現時点での IBM の商標リストは Web ページ「Copyright and trademark information」を参照してください: ibm.com/legal/copytrade.shtml

Java およびすべての Java 関連の商標とロゴは、Oracle やその関連会社の商標または登録商標です。

本文書は最初の発行日現在の内容であり、予告なしに変更される場合があります。また、すべてのサービスが IBM が事業を行うすべての国で利用可能であるとは限りません。

本文書の情報は「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性に対する保証、および非侵害の保証または条件を含め、いかなる明示的または黙示的な保証も行いません。

IBM 製品は IBM 所定の契約書の条項に基づき保証されます。

お客様は、すべての該当する適用法ならびに規制を遵守する責任があります。IBM は、法律上の助言を提供することはいたしません。また IBM のサービスまたは製品が、お客様が法律または規制を遵守していることを保証することを表明または保証するものではありません。



リサイクルにご協力をお願いします